

令和 8 年度 県立茨城東高等学校自己評価表

目指す学校像	「友」とともに。「先生」とともに。「地域」とともに。さあ！新たな一步を踏み出そう！ ○自らの発想やアイデアを遺憾なく発揮し、何事にもチャレンジする姿勢を育成する。 ○学校生活を通じて、集団活動の良さを理解し、思いやりの心を兼ね備えた良好な人間関係を育成する。 (1) 自らの夢・希望を持ち続け、自己の可能性を切り拓く。 (2) 基本的生活習慣の確立及び基礎学力の向上を通じて、希望進路の実現を目指す。 (3) 感謝の気持ちを持ち、お互いを認め合い尊重することのできる集団づくりを実践する。	
三つの方針		具体的目標
三つの方針 (スクール・ポリシー)	育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	○グランドデザインの「目指す生徒の姿」に対応 (1) 目標に向かって自ら考え、個性と創造力を活かし、一生懸命に取り組むことのできる人財。 (2) 知的な好奇心を持って探究し、自らの意志で選択できる人財。 (3) 多様性を理解し、地域を牽引するリーダーとして地域社会に貢献できる人財。 (4) 他者を思いやり、公共や倫理を重んじることができる人財。
	教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	○学校経営計画表の「中期的目標」等に対応 (1) 健全で調和のとれたたくましい人間育成を目指し、規範意識の高揚と基本的生活習慣の徹底を図る道德教育の確立。 (2) 確かな学力を身に付けるため、自ら学ぼうとする態度を身に付けるための指導と、基礎学力の向上を図る教育課程の編成。 (3) 地域社会との連携を深めるなど、他者と協働し地域の問題解決や環境保全、国際理解を図るための体験的な学習及び探究を実践する機会の提供。 (4) キャリア教育の充実を図り、アウトプットの学びをとおして進路意識を高揚させ、進路希望に応じた柔軟なガイダンス機能の充実及び進路指導体制の確立。
	入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	○入学者選抜における特色選抜実施概要の「出願要件」等に対応 (1) 学校生活に目標や活力を持って主体的に臨み、生徒会活動や学校行事、資格取得等に限らず、自らの得意分野を伸ばそうと積極的に取り組む意欲のある生徒。 (2) 地域の諸課題や環境保全に興味を持ち、ボランティア活動や探究活動等を通して地域を支え貢献しようと努める生徒。 (3) 学びに向かう意欲があり、学校や社会の規範を守って日常生活を送ることができ、自立した職業人として社会に貢献しようとする確固たる意思を持つ生徒。

別紙様式 2 (高)

昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成 状況
1 学校設定科目である「キャリアデザイン」において進路に関する様々な学習効果が表れ、進路に対する意識が高まり進路決定者が増加傾向にある。 今後は探究的な学びを充実させ、自ら考え判断し行動できる資質の育成を図っていく必要がある。	(1) 探究的な学びを生かしたキャリア教育を軸として、地域の教育力を生かした教育活動への取り組みのさらなる充実を図る。	ア 全教員の共通理解のもと、キャリア教育の取組を推進する。 イ 生徒の実態、保護者及び地域の要望を的確に把握し、特色ある取り組みを実践する。 ウ 探究的な学びの学習体系を確立する。 エ 資格や検定の取得、ボランティア活動やコンテスト等の参加を通して、キャリア・パスポートの充実を図る。	
2 就職については、学校幹旋での内定率は 100%となった。進学については、総合型入試により私立大学への進学を果たした。 学習に苦手意識を持ち、学習習慣が身に付いておらず、学習目標が設定できない生徒に対して、継続的な学習指導の徹底を図る必要がある。 生徒の学習活動の努力の成果を正しく評価できるよう、評価方法の見直しをする必要がある。	(2) 生徒一人一人の進路実現に向けた教育活動のさらなる充実を図る。	ア 教員による相互授業参観や校内研修等を実施して、指導力の向上を図る。 イ 学習指導要領の内容に即した「ベーシックトライ」の効果的な指導方法の改善を図る。 ウ 習熟度別学習や少人数指導のメリットを生かし、基礎学力の確実な定着と応用力の育成を図る。 エ 「主体的で対話的な深い学び」を実現するために、タブレット等の I C T活用や探究学習を取り入れた授業改善を積極的に実施する。 オ 家庭学習の習慣化とチャイム着席指導を徹底することで、授業を大切にする意識を育成する。	
3 基本的生活習慣の確立を図るため、特に欠席・遅刻等の多い生徒に対して、保護者と連携した指導を継続して行った。 いじめの事案については、いじめ防止対策会議等を中心として学校全体で対処することができた。また、警察などの関係機関とも連携を図ることができた。一方で迅速な情報共有を図る面では課題が残った。 合理的な配慮を要する生徒等への対応は、専門家の指導助言をいただきながら改善を図ることができた。	(3) 道徳観・倫理観を育成し、豊かな人間性を培う。	ア 「ダメなものはダメ」という毅然とした態度とともに、生徒に寄り添う姿勢で指導に当たる。指導は教職員全体の共通理解のもとで行う。 イ 生活の自己管理能力を涵養する。 a 基本的生活習慣を確立させる。『欠席をしない』、『身だしなみを整える』、『あいさつを励行する』、『時間を守る』の徹底を図る。 b 礼儀や言葉遣いなどといった基本的なマナー、公共マナー・交通マナーを身に付けさせる。 c いじめ問題や希死念慮など命に関わる事案の早期発見と早期対応のため、生徒ひとり一人に寄り添いながら、頻繁に声かけや観察をおこなう。命に関わる事態を把握した際にすぐに情報を共有し対応することができる体制の確立を図る。	

4 学校行事については生徒会を中心とし、工夫を凝らして当初の計画以上の行事を開催することができた。今後は、さらに生徒が主体になる学校行事を実施していくようにしていきたい。	(4) 学校行事や部活動等を通して、学校生活を充実させる。	ア 生徒会・各種委員会活動の活性化を図る。(学校への帰属意識の高揚、高い目標での自己実現) イ 校内外での体験的な活動を通じて自己肯定感を高めるとともに、他者への理解を深め、心の成長を図る。 ウ 部活動等への興味・関心を高め、積極的に部活動に参加させる。	
5 国際交流プログラムを実施し、本校生徒及び町内の中学生在が参加してドイツフランクフルト市内の高校へ派遣し、様々な体験を行い、交流を深めることができた。また、町駅伝大会への参加や校外施設での本校生徒作品の展示など、様々な校外行事へ参加をした。 一方で、学校評価の保護者アンケートにおいて評価が前年度よりも低下した。また昨年度の入学者選抜で本校に入学した生徒が昨年よりも下回った。本校の教育活動を積極的に保護者及び地域に発信し、魅力アピールを図る必要がある。	(5) 保護者及び地域から期待され、信頼される学校づくりを推進する。	ア 学校の教育活動の公開、地域行事への積極的な参加等を通じて、保護者・地域社会との連携協力を深め、期待され信頼される学校づくりを推進する。 イ 学校ホームページやマスコミ等を活用して、学校の教育活動及び生徒の活躍する姿を積極的に発信する。 ウ 近隣中学校へ学校の宣伝を積極的に実施して学校の魅力を伝え、入学者選抜の志願者数増加を図る。	
6 教職員の人員削減により、教職員 1 人の業務量は増加傾向にある。勤務時間の管理及び縮減に努めた。ICT を活躍した諸連絡の電子化など業務の効率化を図ることを発展的に継続することができた。	(6) 働き方改革の推進	ア 1 月の勤務時間外校内在校時間合計が 80 時間を超える職員を、0 人とする。 イ 1 月の勤務時間外校内在校時間合計が 45 時間を超える職員を、5 人以下にする。 ウ 業務の精選及び ICT を活用した業務の効率化を図る。	
7 命に関わる恐れのある事案に即座に対応することができるよう、情報を共有して組織的に対応を進めていった。生徒一人一人の実態を把握し、生徒に寄り添う支援と指導を重視する必要がある。	(7) 生徒に対する安心・安全の実施	ア 来校者は最初必ず事務室にて受付を行うなど、来校者の管理の徹底を図る。 イ 危機管理マニュアルを遵守し、事故発生時に正確かつ速やかな対応ができるようにする。 ウ 生徒間のトラブルや事故等が発生した際に全教職員が一気に情報を共有し適切な対応ができるよう、日頃から指導体制の確立を図る。 エ 保護者や関係機関との情報共有や連携を図り、多方面から生徒支援を行っていく。	

別紙様式 2 (高)

8	昨年度の不祥事発生件数は0であったが、引き続き不祥事を起こさない職場環境づくりが必要である。	(8) コンプライアンス遵守の確立	ア 不祥事の発生件数を0とする。その為に、職員間のコミュニケーションを深めるなど、風通しの良い職場環境をつくる。 イ 定期的に研修会を行い、コンプライアンス遵守の意識高揚を図る。	
9	授業改善として、県教委が年度末におこなった生徒による学校評価において「授業満足度」の学校全体の評価平均及び授業改善重点項目はいずれも3.3（最低は2.0）であった。しかし、個々の科目の授業によっては生徒から様々な要望が上がっており、その要望に応え生徒が充実した授業を受けることができるようにすることが必要である。	(9) 授業改善の促進 (授業満足度評価3.4以上の肯定的な評価)	ア 個々の授業においては、生徒から様々な評価が浮き彫りとなっている。授業満足度についての評価は3.4以上を目指すことで、学びの質の保障を果たす。 イ タブレット、学習用アプリを用いて、ICTを活用した授業の実施に努める。 ウ 教員の長所を活かした授業の工夫と展開を図る。	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
	国語の基礎学力の向上と主体的に学ぶ力の育成	・ 始業前の学習準備を徹底させ、服装・態度を見直す指導をした上で始業をする。		
		・ 漢字や語句等の繰り返し学習を通して基礎が基礎学力を付け、グループ学習や表現活動を通して主体的に学ぶ力を育成する。		
	進学・就職試験に対応する実践力の育成	・ 進学試験に向けて検定に参加させ、過去問題の演習や面接・作文指導を通して、進路実現に必要な実践力を身に付けさせる。		
		・ グループ活動やスピーチなどの言語活動を通して、自分の思いを言葉で伝えるための自己表現力を高め、「社会」で通用する力を養い、生徒自身が自信を持てるよう指導する。		
地歴・公民	授業を受ける態度の育成	・ 話を聞く態度を身につけ、社会人として通用する力を養う。		
	基礎学力の定着	・ 基礎学力の定着をはかり、生徒の進路を実現できるようにする。また、生徒に身近な題材の学習内容を吟味し、興味・関心をひくような授業を展開する。		
	進路実現に対する意識の向上	・ 年次と連携し、授業や課外などで就職試験や共通テストの過去問題を取り上げることにより、進路実現の意識を高め、就職試験や進学試験に対応できる力を養う。		
数学	授業を受ける態度の育成	・ 授業開始時刻を守る、ノートを取る、授業者の説明を聞くなどの、学習に取り組む基本的な態度を育成する。		
	ICT機器を活用した指導法の研究	・ 電子黒板やタブレット、専用ソフトを活用した指導法についての研究を深め、生徒の興味・関心を引き出す授業を実践する。		

別紙様式 2 (高)

	基礎学力の定着と定期考査の得点の向上	・ワークやプリントによる問題の反復練習等を通して、各単元の基礎内容の定着を図る。 ・定期考査における「知識・技能」を問う問題の正解率 70%を目指す。			
	観点別評価方法についての研究	・観点別評価について、何を材料にどのように評価するかについて継続的に研究する。併せて、教科としての評価方法を生徒にも周知し、教員による評価と生徒の自己評価に乖離がないようにする。			
理科	授業を受ける態度の育成	・学習用具の準備、制服の着用、机上の整理整頓など授業を受ける態度を養う。			
	分かる喜びを実感する授業の展開	・実験・演習を取り入れることにより、生徒の興味・関心を引き出し、科学の基本的な概念や原理・法則を理解できるようにする。			
		・電子黒板を活用し、デジタル教科書やデジタル資料を用いて、授業の中で実験や観察と同様の視覚的な刺激を与え、生徒の興味・関心・意欲を高める。			
		・授業展開を工夫し、生徒が主体的に授業に参加できるようにする。			
	日常生活の中での科学事象への気付き	・新聞やテレビ等で取り上げられた話題を授業に取り入れ、身の回りで起こる現象等に興味を持たせるとともに、豊かな科学的素養を養わせる。			
		・電子黒板を活用し、日常生活の中での科学事象を取り上げ共有するとともに、多角的な視点からの考え方を知ることによって、科学的素養の向上を目指す。			
保健体育	規範意識の高揚と基本的生活習慣の確立	・「チャイム開始」の徹底や体育時の服装の徹底を図る。			
		・授業を通してあいさつ・礼儀等を身につけさせ、基本的生活習慣を確立させる。			
		・集団での行動や競技におけるルールを学び、公正・協力・責任などの態度を育てる。			
		・準備運動での号令や準備、後片付けを仲間と協力して主体的に行うことができるようにする。			
	心身共に健全な発達と生涯にわたる豊かなスポーツライフの基礎を培うことによるよりよい人間形成	・健康や安全の大切さを認識し、自らの生活習慣を見直し健康を適切に管理することを理解させ実践させる。			
		・運動することに興味を持ち、体力を高めるための運動に継続的に取り組み、個に応じた指導を通して基礎体力の向上と実践力を身に付けさせる。また、体力テストの値を向上させる。			
	興味・関心を高める授業づくり	・意欲の乏しい生徒に対し、運動の技能を高めるとともに、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする。			

別紙様式 2 (高)

芸術	授業を受ける態度の育成	・ 教室移動を迅速に行い、「チャイム開始」ができるよう指導する。			
		・ 歌う、楽器を奏でる、静かに鑑賞ができるよう取り組ませる（音楽）。			
		・ 授業開始までに学習に必要な用具用材を準備し、着席する習慣を身に付ける。（書道・美術）			
	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育成	・ 学習活動における各自の目標を明確に示し、それぞれの特徴（歌唱・楽器／古典作品・用具用材）を捉え、主体的に表現する力を身に付けるための基礎基本を理解させる。			
		・ 活動を通して、芸術に対するとらえ方や考え方を深化させ表現させる。			
外国語	授業態度の育成	・ 生徒一人一人の表現力を伸ばすとともに、作品の製作や表現活動を通して、自己の可能性や表現の楽しさを理解させる。また他の生徒の作品や表現から感じたことをもとに、その良さや工夫にきづき、自分の言葉で表現し、互いに認め合う姿勢を身につける。			
		・ 基本的生活の定着を図るため、教科書・ノート等の持参を徹底させるとともに、身だしなみを整えて落ち着いた態度で授業に望むように指導する。			
	英語学習への意欲・関心の向上	・ チャイム着席・チャイム開始を再確認し、時間を守る意識を育てる。			
		・ ペアワークやグループワークを積極的に取り入れ、生徒が発話しやすい環境を整える。			
		・ パフォーマンステスト等を定期的実施し、「話すこと」「聞くこと」への自身と達成感を高める。			
	基礎学力の向上	・ デジタル教材等を有効活用し、生徒の興味・関心を引き出すインタラクティブな授業を実施する。			
		・ 少人数授業の利点を最大限に生かし、個別対応・丁寧な反復指導を行うことで、語彙力・文法力の確実な定着を図る。			
家庭	授業を受ける態度の育成	・ ベーシックトライや定期的な小テストの活用により、生徒の習熟度を的確に把握し、必要に応じた指導の工夫を行う。			
		・ 学習に必要な教材の準備をさせる。また、実習においては服装をきちんとさせ、衛生面の意識を向上させる。			
	自立できる力の育成	・ 食領域では、栄養や調理の理論、実習を通して自立できる力を身に付けさせる。			
		・ 衣領域では、被服の材料やその管理について学習し、自立できる力を身に付けさせる。			
		・ クレジットや悪質商法の学習を通して、将来賢い消費者として生きる知識を身に付けさせる。			

別紙様式 2 (高)

	健全な家庭生活観の育成	・食領域では、具体的に献立作成や調理実習を通して、健全な食生活の定着を図る。			
		・衣領域では、被服管理を通して清潔な衣生活の定着を図る。			
		・家庭・家族の学習を通して、健全な家庭生活のイメージを高める。			
商業	進路実現に向け、地域社会に貢献できる社会性の育成	・商業の諸科目を通して、社会人として求められる知識を習得し、生涯にわたり自ら学ぶ力を醸成する。			
		・実習及び発表を多く取り入れて、思考やアイディアを形として表現できる創造性を醸成する。			
		・商業の諸科目を通して、企業が順守すべき法令や個人情報の大切さを指導することで、社会人として節度ある人財の育成を目指す。			
	資格取得に意欲ある生徒の育成	・情報処理検定等の資格取得に向け、自ら学ぶ生徒を醸成する。			
情報	情報活用能力の向上	・1 情報社会と問題解決、2 コミュニケーションと情報デザイン、3 コンピュータとプログラミング、4 情報通信ネットワークとデータの活用の4 分野を基礎から学ぶ。			
	情報社会における望ましい態度の育成	・著作権・肖像権等の情報倫理を身に付ける。コンピュータ、スマートフォン等でネットワーク、SNS を利用する際のマナーや注意力を高める指導を展開する。			
	「小規模校支援型遠隔授業」の円滑な実施	・高校教育課、配信校等と連携を図り、「情報Ⅰ」の遠隔授業の円滑な実施、運用を進める。			
教務部	授業時間の確保	・教員不在に伴う授業填補をできるだけ少なくし、計画通りに授業が進められるようにする。			
		・教員が「チャイム開始」「チャイム終了」を心がけることで生徒にもその意識を持たせ、1 時間を大切に授業を実践する。			
	各教科・科目の指導法及び評価方法の研究	・生徒の実態に即した教材の提供や、定期考査の在り方について研究し、実践する。			
		・デジタル教材、電子黒板、タブレットPC の効果的な活用及び教授法の研究を促進し、授業におけるICT 機器の活用頻度を上げる。			
	学校内外への情報発信の充実	・学校ホームページを迅速かつこまめに更新することで、本校の活動の様子を外部に積極的に発信し、学校への理解と関心を深めてもらう。			
		・スタディサプリの活用を促進し、紙媒体の連絡で滞りがちであった保護者等への連絡の精度を上げる。			
	校内情報管理の徹底と周辺機器の整備	・適切な校内情報管理の徹底に努める。			
		・ICT 機器整備を促進し、教員による機器のスムーズな活用に備える。			

別紙様式 2 (高)

	後援会活動の活性化	・後援会の運営体制を整え、適正な運営を行う。			
		・保護者が学校行事に参加できる機会をさらに増やし、後援会活動の活性化を図る。			
	図書館の整備と利用率向上	・書籍や図書資料の充実や備品管理に努め、皆が使いやすい環境を維持し、図書館については生徒の利用率向上を図る。			
		・図書委員の研修会への参加、茨城町立図書館による出前講座受講などの校内活動を通し、地域の図書館との連携を図りながら、図書館利用マナーの意識の向上を促す。また、図書館だよりの生徒主体の作成・発行を行う。			
生徒支援部	規範意識の高揚と基本的生活習慣の確立	・挨拶、礼儀、言葉遣い等を中心に、マナー全般の向上を目指し、継続して指導を行う。			
		・さわやかマナーアップ運動の推進（身だしなみを整える。）、服装頭髪指導の徹底を図る。			
	問題行動及び非行化の未然防止	・教員と保護者間の連携を密にし、指導にあたる。			
		・校舎内外及び学校近隣地域の巡回指導の徹底を図る。			
		・教員間での公平、公正な指導と共通理解の徹底を図る。			
		・校外巡回指導及び立哨指導、保護者との連携を密にし、事故の未然防止に努める。			
	交通事故の未然防止	・交通安全講話の実施。			
		・交通安全及び交通法規遵守、ルールやマナーに関する意識の高揚を図るため、ホームルームその他の機会を設定する。			
	自己の安全や健康に関する意識の高揚	・薬物乱用防止（喫煙を含む）については、外部講師による講習会の開催などにより指導の徹底を図る。			
		・携帯電話やスマートフォンの適切な利用について、家庭でのルール作りを推進し、講習会（外部講師による）を開催し、指導の徹底を図る。			
		・社会生活、集団生活における自己の役割と責任を自覚させる。			
保健厚生部	清掃の徹底と環境整備の充実	・年間計画に基づき定期検査及び日常点検を実施し、学習環境の充実を図る。			
		・毎日の清掃、一斉清掃の徹底を図る。			
	生徒の心身の健康管理の充実	・健康診断・各種検診の実施と事後指導の徹底を図る。			
		・生徒の健康維持のために担任・保護者・学校医との連携を図る。			
		・各生徒の様子を観察し、健康管理を徹底する。			
	防災・防犯意識の高揚	・避難訓練・不審者対応訓練を実施し、防災意識の高揚を図る。			
		・不審者に迅速に対応する研修を行い、防犯意識の高揚を図る。			

別紙様式 2 (高)

	教育相談活動の充実	・教職員、スクールカウンセラー、保護者と連携を図り、生徒への支援を行う。			
		・生徒が相談しやすい環境を作る。			
	校外・校内における研修会の積極的な参加と実施	・校内において研修会を開きカウンセリングの様々な方法を学び、生徒一人一人の悩みや不安に対応する。			
特別活動部	生徒会活動の充実	・生徒会役員として自覚ある行動を促す。			
		・生徒総会やクラスマッチ、体育祭などの学校行事において自主的・自発的な行動を促す。また、生徒が主体的に企画・運営できるよう計画的に指導する。			
	部活動の奨励と活性化	・仮入部や部活動見学を充実させ、部活動加入生徒の拡大を図る。			
		・部活動指導を充実させ、運動部・文化部の活性化を図る。			
	ホームルーム活動の充実	・部活動掲示板などを利用し、各部活動の活動状況・活躍を全校生徒に向けアピールする。			
		・ホームルーム役員の積極的な活動を促す。また、ホームルーム活動資料の活用を図る。（道德教育の充実、東日本大震災や新型コロナウイルスなどを踏まえた安全教育・体験活動、ケータイ・スマホ利用について）			
	学校行事への積極的に参加する態度の育成	・好ましい人間関係の構築やこころの教育、ボランティア活動をととして、奉仕の精神を養う。			
		・各ホームルーム役員や各常任委員会の役員として、クラスマッチなどの学校行事に積極的に参加する態度を育成する。また、学校新聞やホームページなどを活用した広報活動の充実を図る。			
	キャリア・パスポートの活用	・地域社会や地域住民との交流行事やボランティア活動などに積極的に参加し、地域の活性化に貢献する心や態度の育成に努め、地域の一員としての自覚が持てるように指導する。			
進路指導部	生徒の進路決定支援の充実	・キャリア・パスポートを活用して、高校生活を見通したり振り返ったりしながら、学びを積み重ねて成長させる。例えば、授業や学校行事、部活動などの体験や学びで活用していく。			
		・各種ガイダンスやインターンシップ、デュアルシステムの実践を通して、生徒にとって望ましい職業観と勤労観を段階的かつ計画的に育成する。			
		・各教科・年次と連携し、スタディサプリの計画的かつ効果的な活用方法の確立を目指す。			
		・企業説明会や求人等で来校される企業担当者とのヒアリングを丁寧に行い、企業と応募生徒のミスマッチを防ぎ、生徒のキャリア形成の一步目を堅実なものとする。			

別紙様式 2 (高)

	情報の共有	・生徒との進路相談をこまめに実施し、進路選択のミスマッチを防ぐ。			
		・本校キャリア教育のスタイル確立に向けて、キャリアデザイン等の実践を全年次で共有し、効果的な工夫・改善を図る。			
		・到達度テストの定期実施により、基礎学力の定着および学力向上の度合を分析する。			
		・受験報告書や入試情報の分析を積極的に行い、進路指導に反映させる。			
		・ジョブサポーターやハローワークとの連携を密にとり、タイムリーな求人情報を得るとともに、それらの情報を生徒や保護者へ速やかに提供する。			
		・「進路の手引」をさらに活用しやすくなるように編集し、生徒及び保護者への進路情報提供を確実に行う。			
	進路相談環境の整備・機運醸成	・進路指導室や進路資料室を整備し、生徒が進路情報を得やすくかつ進路相談をしやすい環境をつくる。			
		・進路選択に役立つ資料やポスター等の提示・配信を行い、生徒が情報に接する場面を増やし、主体的な進路選択の機運醸成を図る。			
	国際交流・探究推進部	国際交流(受け入れ)の質の向上と安全な運営	・単なる観光や交流で終わらない「探究学習」と連動した受け入れプログラムを設計し、探究的な学びを組み込む。		
			・「ホストファミリー・ガイド(仮称)」を早期に完成させ、マッチング後の事前説明会で配布・周知することで、ホストファミリー支援を充実させる。		
			・宿泊・移動・保健等の項目別対応マニュアルを整備し、全教職員に共有し、危機管理体制を構築する。		
		国際交流に関するノウハウの蓄積と次年度への継続性確保	・準備スケジュール、予算執行、外部交渉の記録を集約し、後任者が参照可能な「引き継ぎパッケージ」を作成する。		
	探究学習の体系化と校内外連携の強化		・年次毎の重点目標を定めた年間指導計画を5月までに改訂する。また、「総合的な探究の時間」と関連教科の相関図を作成する。		
			・自治体・企業等の協力団体リストを作成し、継続的な連携に関する定期的な情報交換を実施する。		
			・学期末や年度末に発表する機会(ポスターセッション、活動報告等)を設定し、多面的な評価を実施する。		
			・生徒の活動成果(スライドや報告書)や教員の指導計画等を蓄積し、全教員が閲覧・活用できる状態にする。		

別紙様式 2 (高)

1 年次	基本的生活習慣の確立	・ 時間を守り、次の予定や時間を意識した行動がとれるようにする。			
		・ 高校生としてふさわしい頭髪・服装の在り方を自覚し、きちんとした制服の着こなしができるようにする。			
		・ きちんと「伝え」「聴く」姿勢とスキルを身に付けさせる。			
		・ 集団の中にある人間関係を理解し、自他の違いを認めることができるようにする。			
	基礎学力の向上	・ 集中し、落ち着いて授業に取り組む姿勢を身に付けさせる。			
		・ 「ベーシックトライ」を通して、基礎学力の向上を図る。			
	進路希望の実現	・ キャリアデザインⅠを通して、社会人として必要とされる資質や自己の適性について気付かせる。			
		・ 休業中の課外を計画的に実施し、進学に係る選抜試験に必要な素養と学力の向上を図る。			
2 年次	基本的生活習慣の確立	・ 部活動や特別活動への積極的な参加を奨励し、生徒一人ひとりが個性を発揮できる環境を整える。			
		・ 学校行事や校外活動への積極的な関わりを支援し、生徒どうしだけでなく、いろいろな人とのコミュニケーションがとれるようにする。			
		・ 時間を守り行動できるようにする。特に授業や集会等のチャイムスタート及び授業に臨む姿勢づくりの徹底を図る。			
		・ 中間年次としてふさわしい頭髪・服装の在り方を自覚し、正しい制服の着こなしができるようにする。			
	基礎学力の向上	・ 集団生活の中で、自他の違いを認め他者を尊重する心を育て、道徳心を身に付けさせる。			
		・ あいさつと正しい言葉遣いを習慣付け、「伝え」「聴く」姿勢とスキルを身に付けさせ、コミュニケーション力の向上を図る。			
		・ 授業に臨むための好ましい姿勢を身に付け、学習に集中して取り組むことができるようにする。			
		・ ベーシックトライⅡを通して、進路実現に必要な基礎学力向上を図る。			
	進路希望の実現	・ ペアワークやグループワークを通して、学ぶことへの意欲を高める。			
		・ 進路希望の実現に向け、キャリアデザインⅡやインターンシップなどを通して社会人として必要な資質や自己の適性に気付くことができるようにする。			
		・ 夏休みなどの長期休業を利用し、オープンキャンパスなどに積極的に参加できるように告知の徹底を図る。			

別紙様式 2 (高)

	諸活動への積極的参加と 集団の一員としての自覚	・部活動や特別活動への積極的な参加を奨励し、生徒一人一人が個性を発揮して活躍できる環境をつくる。そして、茨城東高校の一員としての自覚を持たせる。			
		・修学旅行などの校外活動を通して、社会で必要とされる資質を身に付けられるようにする。			
3 年次	基本的生活習慣の確立	・時間を守り行動できるようにする。特に授業・集会等におけるチャイムスタート及び態勢づくりの徹底を図る。			
		・茨城東高校の最高年次としての自覚を持ち、身だしなみや行動面で後輩の見本となるような学校生活を送れるようにする。			
	基礎学力の向上	・一つ一つの授業時間を大切に取り組み、バランスよく知識を身に付けられるようにする。			
		・ベーシックトライⅢとスタディサプリの課題配信を通して、進路実現に必要な基礎学力の向上を図る。			
	進路希望の実現	・進学や就職試験対策の模擬試験や課外授業、個別指導を計画し、個々の進路希望に応じた進路指導を実践できるようにする。			
		・計画的に面接練習を行い、入学試験や入社試験に対応できるようなコミュニケーション能力の素地を高められるようにする。			
		・保護者との連携を密にし、進路情報を共有することにより進路先内定後の辞退や早期退職等の予防を図れるようにする。			
	茨城東高校の一員としての 自覚と社会人としての 準備	・学校行事に休まず参加し、結果よりも互いに協力し自身の力を発揮することの大切さを意識し、助け合い・学び合いの精神を持って行動できるようにする。			
		・各種学校行事においてリーダーシップを発揮し、これまでの本校の伝統を継承していくとともに、将来地域のリーダーとなる資質を身に付けられるようにする。			
事務部	予算の適正な執行	・コスト意識を持ち最小の経費で最大の効果をあげられるよう効率的な執行に務める。			
	施設設備の適正管理及び 教育環境の整備	・校内危険箇所の早期発見及び早期改修の実施に努める。また、施設設備の整備・改修など、教育環境がより充実するよう努める。			
	省エネルギー・資源リサイクルの推進	・省エネルギー（節電・節水等）の推進に取り組み、使用量削減に努める。			
		・グリーン購入法に適合した物品の購入により、資源リサイクルを推進する。			

別紙様式 2（高）

	窓口等での適切な接遇	・学校の印象は窓口業務にかかっているという自覚を持ち、来校者や電話での対応をより丁寧に行うよう心がける。			
--	------------	--	--	--	--

※評価基準 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない